

実演とお話 (モノクロームバージョン)  
「メゾチントってどうやってできるの？」

講師：加山智章 (版画工房エディション・ワークス主宰)

日時：5月15日 (土) 14:00~16:00



開催中の展覧会「メゾチントの冒険Ⅰ」の関連イベントとして、お話と実演「メゾチントってどうやってできるの？」が開催されました。他の技法に比べてとても難しそうに見えるメゾチント技法は来館者からもよく質問を受けます。講師の加山氏は「奥深いトーンを生み出す仕組みさえ理解してしまえばシンプルな表現方法です。」とのこと。実際にどのように作っていくのか、基本的な工程を実演していただきながらお話いただきました。その様子を少しですがご紹介いたします。



①前半にメゾチント技法の背景や歴史などのお話を聞いた後、いよいよ製版の仕方の実演がはじまります。道具の使い方や製版の進め方など、ひとつひとつが興味深いところ。



②刷りの準備。版にインクをしっかりと詰めた後は、寒冷紗という布 (揉んでやわらかくしておく) で、余計なインクを拭き取ります。版がピカピカ光って見えるくらいまで念入りに。



③刷りの作業は版画のなかでも1番の醍醐味。絵柄がどう刷り上るのか緊張の瞬間です。圧力を調節し、湿らした紙を版の上へのせ、慎重にハンドルを回して丁寧に刷りあげます。



④最後に雁皮紙という薄い和紙を使用する「雁皮刷り」のやり方も実演していただきました。版画ではよく使われるこの手法は、洋紙に刷るのとは全く違った風合いがでます。

加山氏の丁寧なお話と実演に、参加された方からは「疑問に思っていたことが明らかになって、より銅版画に興味が高まりました。お話がとてもわかりやすく、面白かった。」との声をいただきました。展示作品を見るだけでは制作工程を想像するのが難しいメゾチント技法を、わかりやすく理解する貴重な機会になりました。

2010. 5. 15 ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション